

連携先	intra-mart/SAP/JP1	利用シーン	データ連携基盤	業種	不動産業
-----	--------------------	-------	---------	----	------



さあ、街から未来をかえよう

三井不動産
MITSUI FUDOSAN

決裁・会計システムを中心に10システムと疎結合するデータ連携基盤を構築

年間5万8千時間のコスト削減を実現するプロジェクトでASTERIA Warpを採用

三井不動産株式会社

東京都中央区日本橋室町2-1-1

URL : <https://www.mitsuifudosan.co.jp/>

導入背景

三井不動産は、オフィスビルや商業施設、ホテル・リゾート、ロジスティクス事業などを行う総合デベロッパー企業。長期経営方針「VISION 2025」を掲げ、「テクノロジーを活用し、不動産業そのものをイノベーション」を全社の重要施策として位置付けている。同社では多くの企業や銀行との取引があるが、決裁システムと会計システム間のシステム連携がされていない部分がほとんどであった。そのため、決裁システムで承認を受けた取引内容を会計システムに転記するなど、決裁業務・会計業務に関わる多くのシステムで二重入力などが必要になっていた。これらの業務の効率化・標準化を実現するため、決裁システムと会計システムを全面刷新するプロジェクトが動き出した。

課題

- **複数の箇所にデータが分散**
新システムはパッケージやクラウドサービスなどを組み合わせる方針となったため、複数の箇所でデータが保持される。これらを統一的に取り扱い、1つの業務システムとして動作させる必要があった。
- **短期間でプロジェクト遂行**
システム全体の開発期間が1年6か月であり、会計システムが中心となるシステムの運用開始は4月に限定されているため、プロジェクトの遅延は許されない状況であった。
- **変更データの速やかな反映**
1つの会計伝票ごとにシステム間のデータ連携が複数行われている。データの整合性を保つために更新した内容を各システムになるべく早く反映させる必要があった。

導入

- **10システム・120種類のデータを連携**
SQL ServerやSAP S/4HANA、SAP Concurなど内外10システムと連携する約100本のフローを4名で開発。約120種類のデータをシームレスに連携するデータ連携基盤を構築。
- **処理の標準化**
適切な処理単位での機能分割や機能の再利用など、開発ベンダーのノウハウにより開発処理を標準化。周辺システムの変更や接続先の追加にも素早く対応できるように設計。
- **接続先環境を容易に切替可能**
各接続先システムに存在するテスト環境や本番環境など、複数環境への切り替えは接続情報の書き換えのみで簡単に実現。

効果

- **連携開発はわずか4か月**
システム全体の開発期間が1年6か月であったが、接続先システムの開発と同期を取りながら、データ連携の処理部分は全体の1/5の工期で完了。
- **ドキュメント作成・管理コストを大幅削減**
ASTERIA Warpでわかりやすい仕様書が出力可能なため、詳細設計書の作成が不要に。保守ベンダーへの引継ぎ資料作成工数も大幅に削減。いつでも最新版の仕様書を簡単に出力でき、ドキュメント管理が容易に。
- **1日2千回以上の処理実行も安定稼働**
システム間のデータ同期を最短5分間隔で行っており日々大量にフロー実行されているが、障害なく安定して稼働。

ASTERIA Warp選定理由

- 疎結合に適した製品コンセプト
- 周辺システム変化への容易な対応
- データ連携の集約と可視化
- 高いコストパフォーマンス

今後の予定

- **他システムやグループ会社での連携用途拡大**
既に導入している三井不動産リアルティ株式会社をはじめ、他グループ会社でもASTERIA Warpを使用したシステム導入が進行中。利用システムを増やし、グループ共通のデータ連携製品としての活用を検討予定。

お客様から一言

ASTERIA WarpのココがGood!



ITイノベーション部 開発グループ
山本 将人 様

従来のシステムではデータ連携部分を個別で開発していたため、インターフェースの複雑化や保守性の低下が課題となっていました。今回ASTERIA Warpを導入したおかげでシステム間を疎結合にすることができ、かつ短期間で開発できたことは大きなメリットと感じています。JP1/AJS3との連携で当社基幹システムに求められる数分間隔での連携処理も実現でき、問題なく動作しているので大変心強いです。

システム概要図

